



理科好きの子供たちに!

先週、授業を見て回っていると、3年生の理科の授業が行われていました。授業では、植物の種子についての問いが中学年理科担当の紙屋先生から出されていました。「この種は、何の種かな?」と電子黒板に映し出されると、子供たちは、口々に「オクラだ!」「ひまわりかなあ。」などと、答えていました。理科ではよく植物や昆虫などの観察をすることがあります。しかしこれは単なる植物や昆虫の勉強ではなく、「植物や昆虫の勉強を通して〇〇を学ぶ」ということに他なりません。〇〇に入るのは、授業の場面に応じて、能力だったり、態度だったり、心情だったりするわけです。今回の授業では、「植物の種子の勉強を通して、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する力」といったところでしょうか。



授業で提示された種子



一方、理科では「科学的に」ということも大切にされます。多分こうなるんじゃないかというような曖昧な考え方ではなく、より正しい結果を求められますし、誰が見ても納得いく判断が求められるわけです。つまり、「科学的に物事を見たり、判断したりすることができる」ことが大切にされていると言えるでしょう。そのようなときに活躍するのが ICT 端末の活用です。高学年理科担当の牛島先生は、「ものの燃え方」の学習で、ICT を活用していました。電子黒板に火が消える様子を流し、子供たちが気付きを出し合う中で燃焼への興味・関心をもつことに繋がりました。

身の回りにあるものから「わくわく」のある実験や観察等を通して、「ああ、そうか! わかった!」と得られた感動は次への意欲につながります。今年は市教委の配慮で中学年と高学年にそれぞれ理科専科が配当されています。理科嫌いという言葉が当たり前になっている日本ですが、本校から理科好きの子供たちをたくさん増えてくれることを願っています。その成果の一つとして、熊本県の科学展で25年連続で自由研究の入賞者を輩出しており、その功績が認められ、昨年度は「学校賞」も受賞しています。

このように、「問題解決の力を付ける」「科学的に物事を見たり、判断したりすることができる」力を身に付けた子供たちが社会に出て、より正しい判断しながら、活躍してくれることを願っています。